

施策の方向性	事業名	主な実績
A	芸術文化振興補助金	<p>府内の芸術文化団体が行う次世代育成に資する文化活動に補助し、子どもや青少年が優れた芸術文化に親しむことによる心豊かな成長や、大阪の文化を担う人材のすそ野の拡大を図る。（最大100万円まで補助）※大阪府文化振興基金を活用</p> <p>○令和元年度分 応募35件、採択16件 ○令和2年度分 応募36件、採択13件 ○令和2年度分から募集開始時期を約1カ月前倒しし、例年より長い募集期間を確保した。また、募集に関する説明会に加え、新たに個別相談会も実施し、新規事業者の応募にもつながった。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談会を設けたことで、新規事業者からの応募につながったことは評価したい。 ・アーツカウンシルによる現地視察に担当職員が同行することは、担当職員に新鮮な視点を与えるとともに、多様な視点から議論できる場にもなっているので、継続してほしい。 ・本事業の成果目標に「鑑賞機会の提供」が掲げられるが、芸術文化事業が多様化し、参加型の事業も少なくない中、より次世代育成につながりやすい目標の設定を検討してもよいだろう。
A	輝け！子どもパフォーマー事業	<p>府内の子どもが参加し、文化活動を発表・体験する機会を提供する事業に対して補助を行い、子どもたちの感性、創造性、表現力の育成等を図る。※大阪府文化振興基金を活用</p> <p>○令和元年度分 応募30件、採択18件 ○令和2年度分 応募24件、採択17件 ○令和2年度分から募集開始時期を約1カ月前倒しし、例年より長い募集期間を確保した。また、募集に関する説明会に加え、新たに個別相談会も実施し、新規事業者の応募にもつながった。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までになかったジャンルからの応募もあり、多様な人々が関わる可能性が見え始めているという点は評価したいが、申請件数、新規件数ともに減少したのは残念。 ・メセナ自販機の活用や広報連携は良い手法なので、引き続き行って欲しい。 ・本事業は、子どもが芸術文化を通して生き生きと輝くことを目的としているが、大人が応募する仕組みとなっているため、主役である子どもの姿が見えづらいものも散見される。 ・大人が作り上げた事業のみならず、子どもが主体的に作り上げていく事業に対しても、支援が広がるよう、事業周知に工夫してみるとよいだろう。
A	府庁本館活用事業	<p>歴史的・文化的価値の高い府本庁舎を芸術文化活動の発表の場として提供し、府民の活動の場を広げることに伴い、民間の文化芸術団体が実施する自主的な事業を促進する。</p> <p>○4事業（尺八と箏、オペラ、ミュージカル、落語）を実施し、延べ181名が参加。 ○参加者からは、無料公演であること、また府庁内というロケーションの良さに対して好意的な意見を多くいただいている。 ○来年度より、新たな実施場所として、府有施設等を活用予定。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的価値のある本館庁舎において、「芸術家には発表の機会」を、「府民には気軽に芸術に親しむ機会の提供」を、「府職員には『行政の文化化』を顕在化させる」重要な事業。 ・多様なジャンルの公演に機会を提供している点は、高く評価できる。 ・文化的に成熟した都市の魅力を発揮することができる本事業は、工夫を重ね、引き続き行っていく必要がある。 ・今後の活発な活用に向けて、近隣施設との連携や、休日等の開催も視野に入れ進めるとよいだろう。
A	音楽指導事業	<p>府民の音楽活動の促進等を図るため、中高生を対象に吹奏楽などの合奏指導や音楽相談、管打楽器の演奏技術講習会を実施する。</p> <p>○府内の中学校において年2回開催 場所：堺市立三国丘中学校（10/5）、豊中市立第一中学校（2/9） 参加：356名</p> <p>○本事業については、講師の確保が困難となるなど課題も多いことから、令和元年度をもって事業終了予定。ただし、府民の音楽活動の促進という本事業の目的は、府庁本館活用事業の中で達成できるよう検討していく。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営面での課題があり、事業が終了するのは大変残念。 ・今までのノウハウやネットワークを活かし、青少年を対象とした音楽事業を何らかの形で実施することを切望する。

A	音楽体験事業	<p>日本センチュリー交響楽団が中心となって、子どもが楽器に触れるとともに、オーケストラの中で演奏を聴き、指揮をするなどオーケストラのあらゆる面を体験できるコンサート等を実施する。</p> <p>○タッチ・ジ・オーケストラ 8公演 ○星空ファミリーコンサート 1公演 ○支援学校コンサート 1公演 ○支援学校アンサンブル 5公演 ○病院コンサート 5公演</p> <p>○参加者からは、色々な楽器に触れることができた、目の前で迫力ある演奏が聴けたなどの意見が寄せられ、非常に好評であった。 ○府民が音楽に親しめる環境を提供できるよう、引き続き楽団の活動を支援していく。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タッチ・ジ・オーケストラについては、青少年の育成や芸術文化の裾野の拡大という点で府の文化事業の基盤を成す重要な事業。プログラムもよく練られており、子ども達が主体的に、各自でオーケストラに関われる仕掛けが随所に工夫されている。 ・一緒に視察した担当職員からは「子ども達の最初の様子と、一連のプログラムを体験した後の様子とは、音楽の聴き方や表情が大きく変化しており、事業の成果を感じられた」という感想があり、担当職員が事業成果を現場で体感できる貴重な事業。 ・実施回数がこれ以上減らないように継続すべき。
A	メセナ自動販売機の設置等	<p>広く府民の方から寄附を募り、みんなで文化を支える仕組みづくりの一つとして、自動販売機の売上げの一定割合を文化振興基金に寄附いただく「メセナ自動販売機」の設置を促進する。また、大阪府文化振興基金への寄附機能の付いた社会貢献型クレジットカード「OSAKAメセナカード」を発行する。</p> <p>○メセナ自販機の新規設置（9台） ○次世代育成型メセナ自販機の新規設置（2台）新別館南館10階、咲洲庁舎27階 ※次世代育成型メセナ自販機については災害対応型自販機（災害時に避難者等に対して自販機内の在庫飲料を無償で提供することができるもの）とした。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間の力を活用した公的文化的支援の取り組みとして、府民も寄与しやすく、企業の社会貢献ともなる良い仕組み。 ・令和元年度は、メセナ自販機の増設、災害対応型自販機の導入や飲料メーカーに対する営業活動の展開など、事業推進に努められたことを高く評価したい。 ・自販機以外にも、この仕組みが活用できる可能性を探っていくとよいだろう。 ・大阪文化の認知度を高めるため、自販機を使うメセナの取組を英訳して海外に発信しても面白い。
A	オーケストラハウス管理	<p>日本センチュリー交響楽団に貸付をしているオーケストラハウス（服部緑地内）の管理等を行う。</p> <p>○適宜、施設の補修や定期点検を行うなど、適切に管理を行っている。</p> <p>【補修】 空調機器（室外機）、屋根漏水箇所、楽器庫等の雨樋の補修 合奏室屋根取替工事 等</p> <p>【定期点検】 建築点検及び設備保守</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かねてから懸案であった施設の雨漏りについて、令和元年度は特別に予算を確保し、大規模補修工事が実施されたことは評価したい。 ・施設自体、今後とも老朽化は進行していくため、引き続き適切に維持管理していく必要がある。
A	大阪府アーティスト情報発信事業（バンク）	<p>府内で活動するアーティストの情報を広く府民に紹介することで、地域や学校における府民の自主的な文化活動をサポートする。</p> <p>○ホームページで公開する情報の更新は、随時実施。（新規登録：個人4件、団体3件） ○年度未登録件数：個人69件、団体99件</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報管理、SNS発信等、情報発信の在り方が変化しており、より現実に即した形態に変化させる必要があるだろう。 ・例えば、ワッハ上方や江之子島文化芸術創造センター等が、アーティストやクリエイターをつなぐ役割を果たすなど、よく考慮した上で、現在の登録者がよりよく活動していけるように改善を図ってほしい。

B	上方演芸資料館（ワッハ上方）の管理運営事業	<p>大阪固有の文化である上方演芸を後世に伝えていくため、資料の収集・整理・保存を行うとともに、資料の館内・館外展示や上方演芸の殿堂入り等を通じて、上方演芸に親しむ場等を提供する。</p> <p>収蔵資料を活用した展示やワークショップの開催を通じて、上方演芸の歴史や魅力を広く発信し、4か国語に対応した展示のほか、外国語対応可能なナビゲーター（演芸人）も常時配置している。</p> <p>○収蔵資料を活用した展示 4回 常設展示、企画展示「芸人とファッション」、「芸人さんは多才だ！」 館外展示「上方演芸演芸殿堂入り」</p> <p>○ワークショップの開催（毎月第1・3土曜日、日曜日） 39回</p> <p>○事業者連携イベント 6回 ワッハ上方漫才ライブ・ワッハA講演会など</p> <p>○来館者数 34,541名</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間の芸能プロダクション等とも連携しながら運営に取り組んでいる。今後は、中長期計画と年度ごとの戦略を立てて取り組みを重ね、府民や来館者などに一層愛される施設として成長させてほしい。 ・大阪中之島美術館への映像資料協力、国立民族学博物館への楽器資料貸し出し等、公益性の高い専門文化施設との連携は、資料の重要性をワッハ上方に来館しない人も発信する貴重な機会であり、継続発展実施してほしい。 ・専属の学芸員が重要な役割を果たしており、引き続き他機関との連携を続けてほしい。 ・課外クラブ活動で落語に取り組む小学校がある。そのような学校をリサーチし、クラブ部員に対する夏休み中の上方芸能学習会や指導教職員向けの研修などを開催すればどうか。ワッハ上方の学校教育への活用や、将来の上方芸能の担い手育成にも寄与することが期待できる。長期的な視点に立った活動を始めてみてほしい。
B	大阪文化芸術フェス2019	<p>文化を核として、大阪の都市魅力を創造し、発信していく事業として実施。大阪が誇る上方伝統芸能や上方演芸をはじめとする優れた文化芸術など、多彩で豊かな大阪の文化魅力を広く国内外に発信し、インバウンドを含めた多くの観光客を呼び込むことにより、国際エンターテインメント都市の実現と、「大阪」のプレゼンス、都市格の向上を目指していく。</p> <p>○主催プログラム 大阪や日本各地の祭りを集めたプログラムやコシノジュンコファッションショーなど11件 公演数19回</p> <p>○共催プログラム DREAM LIVEやシアターサーカスなどのプログラムなど13件 公演数65回</p> <p>○来場者数 約339,139人 ○メディア掲載数 798件 ○来場者満足度 93%</p> <p>○昨年度以上のプログラム数を実施したほか、地域の伝統行事の「祭り」をテーマにした内容や、歴史ある神社仏閣でのクラシックコンサート等、内容の充実を図った。</p> <p>○今年度は、2年間委託できる仕組みを導入したことから、2020年度も視野にいたれたプログラムを実施。</p> <p>○広報面においては、パンフレットや公式ホームページの多言語化（4か国語：英、中（簡体字、繁体字）、韓）を継続するとともに、翻訳に係る時間を短縮するためHPの自動翻訳を導入。また、新たな試みとして中国や台湾のインフルエンサー等による情報発信を行った。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知度向上を目標にし、海外のインフルエンサー等による情報発信など、インバウンドを増やす新たな試みをした点は評価したい。費用対効果を検証し、より効果的な取り組みにしてほしい。 ・地域や市民が主体的に関わり、本事業をより持続可能な仕組みにしていく仕掛けが必要ではないか。今年度は、大学生が企画に関わったり、地域のお寺を会場に使った取り組みなどが見られたが、引き続き、地域や市民の自発性の促進、新たな地域資源の発見に積極的に取り組んでほしい。 ・本事業を大阪の都市格向上につなげるには、「大阪文化芸術フェスであれば、面白い、外れがない、海外から観に行くに値する」といった、ブランド力向上を図って集客してほしい。また、そのためにも、個々のイベントや全体のコンセプトに責任を持つディレクター等を置くことが望ましい。 ・また、本事業は、エンターテインメント路線なのか、上方伝統芸能に焦点をあてるのか、軸が見えづらく、そのことが事業の意義や発信力を分かりにくくしている面があり、本事業の軸を改めて見直し、第4次大阪府文化振興計画における「大阪のブランド力を活用した都市の魅力向上と新たな文化の創造」に資するよう、努めてほしい。

B	芸術文化顕彰事業	<p>大阪の文化・芸術に多大な貢献のあった方の顕彰等により、大阪の文化振興の機運醸成や都市魅力のアピールを行う。(大阪文化賞、大阪文化祭賞、山片蟠桃賞)</p> <p>○山片蟠桃賞 第26回受賞者：ハルオ・シラネ氏 (Haruo Shirane) ※記念講演会を実施し、府民など159人が講演を聴講 贈呈式等：令和元年6月17日(月)</p> <p>○大阪文化賞 受賞者：豊島将之氏(将棋棋士) 贈呈式：令和2年2月12日(水)</p> <p>○大阪文化祭賞 受賞者：<第1部門> 仮名手本忠臣蔵 九段目 山科閑居の段 出演者ご一同 「11月文楽公演」の成果</p> <p><第2部門> 南河内万歳一座「～21世紀様行～唇に聴いてみる」の舞台成果</p> <p><第3部門> K★バレエスタジオ「33回メモリアルコンサート」の成果</p> <p>奨励賞受賞者： <第1部門> 山村 若(わか)、山村 侃(かん) 新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会「竹生島」の成果 尺八古典本曲断片 ご一同 「尺八古典本曲断片 其の玖(きゅう) 三谷・菅垣 弐」の成果</p> <p><第2部門> 五代目 旭堂小南陵 連続講演千鳥亭における「王妃(だつき)のお百」の舞台成果</p> <p><第3部門> 古瀬まきを 「古瀬まきを ソプラノリサイタル～L a voix humaine～」の成果 アンサンブル九条山 アンサンブル九条山コンサートvol.7「セレクションズ」の成果 贈呈式：新型コロナウイルス感染症の影響により中止</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化活動の顕彰は活動を行う者にとって大きな励みとなり、顕彰の経歴はその者のプロフィールに書かれ続けるので息の長い周知につながる。 ・実力のある芸術家らが大阪に存在するという認識は、府民のシビックプライドにもつながる。続けることで賞の価値もあがるので、今後も継続してほしい。 ・山片蟠桃賞では、受賞記念講演が大阪大学と早稲田大学でも行われ、このような学術的な広がり、この賞ならではのことであり評価したい。 ・いずれの賞も多くの報道があったが、受賞者の活動を伝える動画などの導入も周知に効果があると思われるので、検討してみてもどうか。
B	大阪文化再発見事業	<p>「大阪文化」の豊かさを再認識するため、市町村、大学及び研究機関等と連携し、「おおさかふみんネット」や「阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット」を立ち上げ、府民向けの共催講座を実施する。</p> <p>○阪神奈公開講座フェスタ 講座数：18講座、参加者：延べ771名 ○おおさかふみんネット 講座数：11講座、参加者：延べ872名</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報を高年齢層でも行ったことで新規参加者が増えた。参加者層にあう広報戦略が行われたことを評価したい。 ・今後も焦点を絞った広報を、他事業とも連携しながら行うとよいだろう。 ・広域自治体の特性を活かした市町村との連携、阪神奈という広がりでの大学連携と、大阪府ならではの公的な文化ネットワークがあることは、非常に重要。今後、ネットワークを意識した目標をたてるなど、良い点を伸ばしてほしい。
B	アートスポット魅力発信事業	<p>公共の空間や施設内において、都市魅力を向上させ、観光集客につながるようなアート作品を設置することにより、大阪に新たな名所(アートスポット)を創出する。</p> <p>○部内での協議や関係者等からのヒアリングを実施するとともに、事業スキームの再構築について検討した。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査検討を重ね、課題を明らかにしたことは評価したい。 ・美術作品の新規設置を目標とするのではなく、長期的な視野に立ち、府内の美術全体がエンパワメントされるような観点を検討してほしい。

C	江之子島文化芸術創造センター管理運営事業	<p>文化芸術の振興を図り、大阪の都市の魅力の向上に資するため、絵画等の収蔵作品の管理活用、交流・活動場所の提供、アートやデザインを活用した社会課題の発見・解決等、創造的な活動機会の創出を支援するための協働の拠点づくり等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○収蔵作品を活用した展覧会を3回実施 対話型鑑賞である「おしゃべり美術館」や気鋭作家による府コレクションとの「コラボレーション展」等工夫を凝らした企画は、メディアの注目度も高く、集客促進や、府内の教育関係者等とのネットワーク構築につながった。 ○障がい者アートに関する展覧会への減免や広報等への協力を実施 (文化芸術フェス2019の参加プログラム) ○館内のフリースペースを活用したネットワーク構築事業や、対話型鑑賞会を8回実施 これまでつながりのなかった顧客層の誘客や、新たなネットワークの構築等に繋がっている。 ○多様な世代・関心に対応した教育講座を2学科3コース開講。 延べ33回(参加人数:延べ341名)実施。 ○プラットフォーム事業については、外部資金を活用して実施したほか、昨年度までに蓄積された事例やノウハウを府内市町村に普及啓発した ○プラットフォーム事業をはじめ、コレクション活用や教育事業が評価され、(一財)地域創造が実施する「地域創造大賞(総務大臣賞)」を受賞した ○積極的な広報活動や貸館利用者への注目度の高さ等を受け、メディア露出の機会が増加し、集客につながった ○R1来館者数:131,829人(R2.3月末) H30来館者数:100,082人(H31.3月末) <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム事業、美術コレクションの活用など、他の文化事業では手が届かないところを、江之子島文化芸術創造センターが取組んでいる点は評価したい。 ・他事業と比べても様々な成果を生み出しており、教育、福祉、まちづくり等他の施策分野への活用や、他機関とのネットワーク強化など、これからも成果を生み出せるポテンシャルの高い取組みである。 ・今年度、府担当者とアーツカウンシル委員で、補助金事業の課題を共有するワークショップを行った。今後、本事業についても、府担当者、指定管理事業者、アーツカウンシル委員などで、事業の課題や成果等を改めて整理してほしい。
---	----------------------	---

凡例：第4次大阪府文化振興計画 施策の方向性

- A 文化創造の基盤づくり
- B 都市のための文化
- C 社会のための文化